

歌仙「吾が日々」の巻

起首 平成十六年二月二十四日
満尾 平成十六年四月 六日

オ	発句	されど吾が日々はるかなり葡萄吸ふ	晴生	秋
脇	祖父の水車に思ひ出の月	昭一	秋・月	
第三	稲を刈る姉さん被りあちこちに	英史	秋	
四	軽トラの上傾ぐマネキン	和子	雑	
五	西日背に商ふ母が手を上げて	久枝	雑	
折端	縁台の子らおはじき遊び	房子	夏	
ウ	蝉時雨鎮守の森にこだまする	晴	夏	
二	さざ波遠くめざす対岸	英	雑	
三	アラスカの海越え来たる メール	和	雑・恋	
四	恋する二人登山樂しむ	久	雑・恋	
五	菩提樹を吹く風の色老いし目に	昭	雑	
六	貧しき家に草木染めする	房	雑	
七	病む師らと連句巻く夜の冬の月	晴	冬・月	
八	雪積む野辺に犬の遠吠え	和	冬	
九	リーダーの悠然群れに歩み入る	英	雑	
十	静まる里に一陣の風	久	雑	
十一	蛇尾(さび)流れ古城公園花の中	昭	春・花	
折端	茶箱の点前(てまえ)初蝶来る	房	春	
ナオ折立	春つらら烏ヶ森に友集(つど)ふ	晴	春	
二	おぼつかなくも天狗舞ひする	英	雑	
三	女面外しやもめが酒をくむ	和	雑	
四	思ひ語らむ古里の詩(うた)	久	雑	
五	山巡り野は茫々と初夏の馬	昭	夏	
六	蛩を追ひて時を忘れる	房	夏	
七	ワンワンと泣きながら行く子が独り	晴	雑	
八	雨の石段腕組みながら	和	雑・恋	
九	縁結び願ひの絵馬の真新し	英	雑・恋	
十	三味の音凜と下町の露地	昭	雑	
十一	赴任した学舎跡地に月登る	久	秋・月	
折端	コスモスも皆もう眠りつく	晴	秋	
ナウ折立	三姉妹背中かがめて墓洗ふ	房	秋	
二	滝音耳に鳥の影見ゆ	晴	雑	
三	山降(くだ)るザワザワ畑野足下で	久	雑	
四	孤影きびしき迢空の旅	昭	雑	
五	花曇る一時(ひととき)史書を繙きて	英	春・花	
拳句	水面を染める春がゆらゆら	和	春	